

グローバル化が加速する21世紀において、多言語多文化共生の教育が喫緊の課題となっている。

本書は、異文化間教育学の専門家であり、国施策に関与してきた著者が、「多文化社会の教育を構想する一助になれば」との思いで、教師などの実践者を意識して執筆したものである。

第1〜5章は日本の学校教育の中における外国人の子どもの現状と課題について語っている。とりわけ、第3章では、将来の日本社会を支える人材の育成という視点が必要であることを述べ、その具体的な取り組みとして、「日本語と教科の統合学習」に焦点をあてて、「活動を通じた学びの場づくり」と「授業づくりのためのツール開発」、及び、学校外や地域での支援などを紹介している。第6章では、海外子女教育振



多文化社会に生きる子どもの教育 外国人の子ども、海外で学ぶ 子どもの現状と課題

佐藤郡衛 著

2640円 明石書店

☎03-5818-1171

興財団の報告書から海外に住む多様化した日本人の子どもたちの教育を概観した後、著者が独自で行った調査から、補習授業校は以前のような駐在員家庭の子どもを対象にしたものではなく、永住者や国際結婚家庭の子どもにも日本語の学習を保障することや新しい日本人

としてのアイデンティティを形成できるような場に変換する必要があること、日本に関わる「協同学習」をしつかりと保障すること、そうした実践の可能性を示していくことがこれからの課題であると言及している。

これらを踏まえて第7章では多文化に生きる子どもへの教育では、多様性を尊重することが重要になり、その教育を構想するには共通性も考慮しなければならぬとして、国際バカロレア（IB=International Baccalaureate）に注目し、日本におけるIBの可能性と課題について触れている。

（愛知教育大学教授・高橋美由紀）